

かのや 鹿児島県 鹿屋市

鹿屋市地域包括支援センター

総面積：448.15 km²

人口：10万4,300人

65歳以上：2万9,094人

高齢化率：27.9%

(2017年9月1日 現在)

執筆：鹿屋市地域包括支援センター センター長 徳留浩二

「敷居の低い」多職種連携を目指して

基幹型として医師会が運営

鹿屋市は、本土最南端へと伸びる大隅半島のほぼ中央に位置し、世界に誇る照葉樹林帯などすばらしい自然環境に恵まれた第一次産業のまちです。2017年9月に開催された「第11回全国和牛能力共進会」において鹿児島県は、悲願の団体賞（総合優勝）を獲得。鹿屋の和牛は鹿児島県の和牛日本一に大きく貢献した、「日本一 和牛のふる里」です。

さて、人口10万4,000人、65歳以上の高齢者が2万9,000人、高齢化率27.9%です。市町村合併の流れの中で、2006年1月に1市3町が合併、旧鹿屋市（25.9%）以外の旧3町は高齢化率が34～44%で少子高齢が

急速に進んでいることから、地域の実態に対応した体制と支援が求められています。

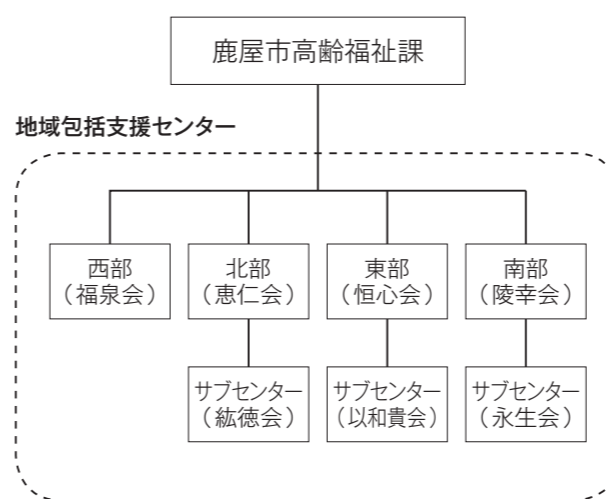
鹿屋市医師会が受託事業者として運営

鹿屋市の地域包括支援センターは、2016年3月までは、市全域を東西南北で4分割し、運営も個別に社会福祉法人または医療法人に委託していました（図1）。しかし、

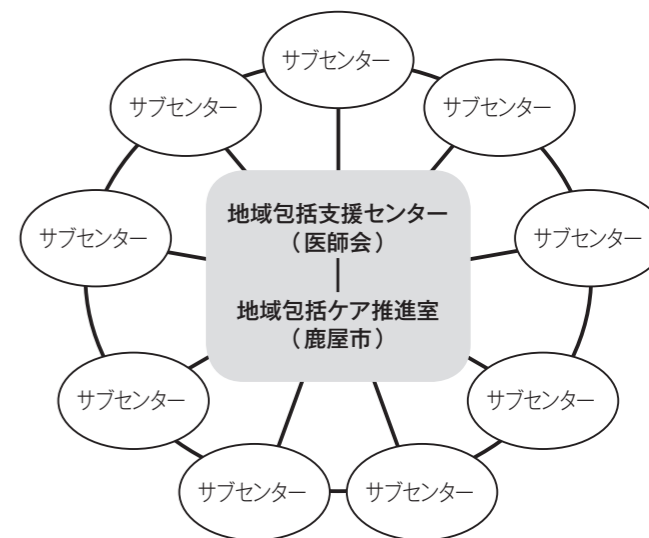
1. 近年複雑かつ増大する住民に柔

図1 鹿屋市地域包括支援センターの体制図

【旧センター】



【新センター】



軟に対応するため、センター機能のさらなる充実・強化が求められていること

2. 在宅医療や介護連携などを効果的に推進するため、医師会とのさらなる連携強化が必要であること

などから、2016年4月に市内4カ所の地域包括支援センターを統合。新たな拠点施設となる「基幹型地域包括支援センター」として開設され、現在、鹿屋市医師会が委託事業者として運営しています。なお、このセンターは、「鹿屋市在宅医療介護支援連携センター」としても位置づけています。

入院可能な医療施設が集中する鹿屋市の医療機関を軸に、大隅圏域全体（人口約24万人）での日常の

療養生活を継続できる支援体制と在宅医療推進を図っています。

見直しは新しい時代に向けた「改革」

鹿屋市医師会に委託された経緯ですが、これまでの委託法人に運営上課題等があったということではありません。福祉を取り巻く状況は、社会保障費の増加に伴い、医療・介護・年金など関係法令が毎年のように改正されサービスのあり方が刻々と変化しています。このような中であって鹿屋市版の「地域包括ケアシステムの構築」に向けて、その中核となる地域包括支援センターの充実強化をさらに図る必要性を考えたとき、現状に

満足することなく、新たな仕組みとしての体制構築が必要ということになりました。その方向性を旧4委託法人と共有し、また理解のもと、現在に至っています（図2）。

経緯でお分かりのとおり、鹿屋市医師会への提案から、わずか3カ月で受託決定となりました。鹿屋市医師会としても、地域を一つの病棟と捉える視点など「暮らしを支援する医療」の取り組みが求められていたこともあり、行政との連携により効率的・効果的に事業展開を目指すこととなりました。

こうして鹿屋市の「地域包括ケアシステムの構築」は、医師会の重要課題として、会長をはじめ理事・会員の理解のもとに基幹型として再出発しました。